

令和５年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

校訓「克己」のもと、己に打ち勝つ強い意志を持ち、自分の未来を自分の力で創造しようとする心を持った、他者との関わりの中で、次世代の社会に貢献できる人材を育成します。 今後の社会で必要な力として挙げられているジェネリック・スキル（汎用的能力）の中で、特に金岡高校で身に付けてもらいたい6つの力を「愛し愛され・金岡力」を基に定義しました。 「愛し愛され」には「自己と他者と、よりよい関係を築く力」の意義があり、①コミュニケーション能力 ②自他の理解能力 ③他への働きかけ力 また「金岡力」には、「知識を活用して問題を解決する力」の意義があり、④自己管理力（克己心） ⑤知的能力 ⑥問題解決力 これら合計6つの力を伸ばし、それによりキャリアプランニング能力が向上し、自らの将来について、選択・設計・行動・実現に向けて進みだすことができる生徒の育成を目標としています。

2 中期的目標

1 学習習慣と生活習慣の確立および基礎学力の定着、進路実現 （1）全教職員が授業改善に取り組み、授業力を磨くとともに、生徒の主体的・能動的に学ぶ姿勢を引き出すことでジェネリック・スキル（汎用的能力）を育成し、進路実現をサポートする。 ア 総合的な探究の時間を用い、新しいアクティブラーニング型授業「探究」を開発実践し、21 世紀型スキルであるジェネリック・スキル（問題発見&解決力、論理的批判的思考力、情報編集力、コミュニケーション能力、表現力など）を磨く。 イ 新たに情報部を新設し、教員内に定着してきた ICT 活用を、情報部を中心として ICT の有効な活用方法について研究する。また、教職員間の意識改革などを通じて、生徒一人ひとりが主体的・能動的に学習できる教授法・学習法を研究していく。 ウ 授業の質を高めることで学力の向上を図る。 ※全教職員が他の教員の授業を相互に見学して、意見や情報を交換し、お互いにフィードバックを行うことで授業力の向上を図る。 各自、自身の教科以外の授業見学も含めて、年2回以上の授業見学を実施 令和7年度まで継続する。 ※授業アンケート評価全項目の平均値 3.40 を維持する。（R2 =3.27, R3 =3.41, R4 =3.42） ※学力生活実態調査の学力指標 GTZ（R2．9月：Aゾーン 2.1%, Bゾーン 48.1%, Cゾーン 41.0%, Dゾーン 8.9% R3．9月：Sゾーン=0.2%, Aゾーン=3.4%, Bゾーン=44.8%, Cゾーン=40.9%, Dゾーン=10.7% R4．9月：Aゾーン 1.6%, Bゾーン 35.6%, Cゾーン 46.4%, Dゾーン 16.4%）を、令和7年度には国公立難関大学を狙えるAゾーンを3%に、中堅校を狙えるBゾーンを40%に。Dゾーンを10%以下にする。 ※本校が進学実績の指標と位置付ける難関校、私立中堅校の合格者（R2 =12人, 118人、R3 =8人, 151人、R4 =12人, 164人）を、令和7年度に各20人超、150人超とする。 （2）「他への働きかけ力」を鍛え、21 世紀型スキルを身につける。 ア 図書室の役割を強化し、各種の情報発信やビブリオバトルの取組みを強化していく。 ※図書館の生徒貸出数（R2 =569冊, R3 =668冊, R4 =470冊）を令和7年度まで500冊を維持する。 ※高校ビブリオ西日本大会（R1 まで6大会連続出場、R2 中止、R3 中止、R4 中止）、高校生ビブリオバトル大阪大会（R2 中止、R3 6大会連続出場 R4 出場せず）において、令和7年度まで府大会出場を維持し、上位をめざす。 イ ソーシャルスキル（傾聴力、アンガーマネジメントなどエモーショナル・リテラシー）やメディアリテラシーの育成 ※教員向け各種研修を実施し（毎年3回以上）、また生徒向けにも実施する。 （3）修学旅行の充実 ア 情報の授業と連携し、情報収集能力およびプレゼンテーション能力を鍛える。また、その地域の気候・産業・文化等も研究し単なる観光に終わらせない充実した修学旅行を体験させる。 ※令和7年度まで、実施後のアンケートの満足度が肯定的評価85%以上（R4 =96.5%）を維持する。 （4）国際感覚を身につける。 ア オーストラリア語学研修の実施を継続する。 ※継続的实施および英語の発表機会の充実をめざす。コロナ禍で実施できない場合には代替の取組みを考える。	
2 安全安心な学校づくり （1）安全安心な学園環境を整える ア 学校付近の厳しい交通環境の中、通学路における自転車事故ゼロをめざす。 ※前年度より減少させることを目標とする。（R2 =37件, R3 =42件, R4 =68件） （2）人権教育の充実 ア HR や総合的な探究の時間を活用し、他者を思いやる人権意識の向上を図る。 ※学校教育自己診断(生徒)「生徒間でお互いを尊重する雰囲気がある」（R2 =75.8%, R3 =87.1%, R4 =89.5%）を令和7年度まで80%を維持する。 （3）教育相談体制、サポートの充実 ア SC（スクールカウンセラー）とSSW（スクール・ソーシャルワーカー）を活用して支援体制をサポートする。 イ 支援が必要な生徒の自立と進路実現を目標に日常をサポートしていく。	

※SC の相談回数を増やすとともに、本校独自に SSW を招聘し、定期的に SC や SSW のケース会議を開催
令和 7 年度まで SC や SSW の参加しているケース会議を年 10 回実施し、継続する。(R 4 11 回)
(4) 地域連携や、部活動・生徒会活動の活性化
ア 地域に支持される学校をめざす。 吹奏楽部、軽音楽部、ボランティア部、ほか各クラブや、芸術科、家庭科などの授業でも、地域や保護者、周辺施設と協働して交流を深めると同時に、生徒にさまざまに活躍できる場を提供する。
イ 生徒の自主性を尊重し、「生徒が主役」の生徒会、学校行事、HR 活動、委員会活動、部活動をサポートする。 ※令和 7 年度まで、学校教育自己診断（生徒）「学校行事等が自主的に運営されている」(R 2=81. 9%, R 3=77. 8%, R 4=80. 2%) 肯定値 80%を維持、「部活動は活発である」(R 2=85. 9%, R 3=89. 8%, R 4=89. 7%) 肯定値 85%を維持する。
ウ 学校説明会を充実させる。 ※令和 7 年度に実施後のアンケートの最上位評価 80%にする。(R 2=67. 1%, R 3=76. 5%, R 4=81. 3%)
3 教職員の働き方改革
(1) 時間外勤務の削減
ア 月の時間外務勤務 80 時間超の延べ人数を削減する。※前年度より減少させる。(R 2=54 人, R 3=51 人, R 4=28 人)
イ 教職員が効率的な仕事が行える環境を整えるための支援を行う。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 5 年 12 月実施分〕	学校運営協議会からの意見
○生徒 18 項目中 16 項目で肯定回答が増加した。(その他に本年度 7 項目新設あり) 5 %以上増加したものは4 項目あり、以下の通りである。 ・[生徒会の諸行事は、生徒によって自主的に運営されている] 81. 0→89. 2% (8. 2%増) 諸行事における生徒会の自主運営については、自分たちの力で様々な行事をコロナ前の状態に戻したという認識を反映したものと考えられる。 ・[生徒は校内美化に努めている] 78. 6→85. 0% (6. 4%増) ・[命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある] 85. 1→92. 9% (7. 8%増) ・[学校は生徒 1 人 1 台端末を効果的に活用している] 81. 7→87. 2% (5. 5%増) 1 人 1 台端末については、授業、総合的な探究の時間等の他、通常の連絡、アンケートでの活用も進んでいることを反映したと考えられる。 減少となった 2 項目はいずれも 0. 2%、0. 4%の微減であった。 ○保護者 15 項目中 13 項目で肯定回答が増加した。 5 %以上増加したものは5 項目あり、以下の通りである。 ・[学校の生徒指導方針に共感できる] 79. 1→84. 9% (5. 8%増) ・[生徒会の諸行事は、生徒によって自主的に運営されている] 84. 6→90. 3% (5. 7%増) ・[学校の行事等に参加したことがある] 27. 4→53. 8% (26. 4%増) ・[学校行事に機会があれば参加しようと思う] 71. 3→76. 8% (5. 5%増) 学校行事については、コロナ前の状態に戻して文化祭、体育祭等を実施できたことで、多くの保護者の参加が得られたことを反映したものであると考えられる。 機会があれば参加したいとの回答も増えており、次年度さらに多くの保護者の参加が期待できる。 ・[学校からの連絡事項は伝わっている] 72. 5→81. 0% (8. 5%増) 今年度から保護者連絡には「さくら連絡網」を活用しており、保護者に直接連絡する体制が浸透していることを反映した結果と考えられる。 ○教職員 31 項目中 22 項目で肯定回答が増加した。 5 %以上増加したものは 10 項目で、そのうち 10%以上増加したものは 5 項目あり、以下の通りである。 ・[教員の間で授業方法等について検討する機会を持っている] 65. 4→78. 0% (12. 6%増) 観点別評価について、また ICT の活用方法について教員間で相談していることを反映しているものと考えられる。 ・[本校の人権教育は生徒の人権意識の向上に役立っている] 63. 5→74. 5% (11. 0%増) ・[人権に関する生徒の言動や感覚について教員間で話し合う機会がある] 43. 4→56. 9% (13. 5%増) ・[本校にパワハラはない] 66. 7→77. 6% (10. 9%増) ・[教員が一人で問題を抱え込まない体制が整備されている] 55. 8→66. 0% (10. 2%増) 教育相談体制の整備や、SC、SSW、CC の活用を通して生徒の状況を教員間で共有する体制が進んできたものと考えられる。 また、大きく減少したものとしては、 ・[学校運営に教職員の意見が反映されている] 66. 7→56. 0% (10. 7%減) ・[生徒は交通マナーを守っている] 79. 2→68. 6% (10. 6%減) があり、数値を下げた要因が何であるかを分析し、改善を図る必要がある。特に 90%以上が自転車登校をしている現状を踏まえ、自転車マナーの向上と登下校時の安全確保は急務である。	第 1 回 7 月 21 日（金）開催 ○スクール・ポリシー案について ・「スクール・ポリシー案のアドミッション・ポリシーの学校の概要の中の“真面目にコツコツ”という表現は口語的でスクール・ポリシーに盛り込む表現としては別な方が良いのではないか」とのご意見が出された。 「入試のタイプを学検重視であるⅠ型からやや調査書を重視するⅡ型に変更したことを受け、あえてこの表現にしている。高校に入学後も 3 年間しっかり取り組んでほしいという思いを込めたものでもあるが、ご意見を踏まえ、再検討したい。」と回答した。 ・同じくアドミッション・ポリシーの本文において、すでに特定の能力を持っている生徒を求める表現と、能力を身につける意欲がある生徒を求める表現が混在しているが、ここは意欲がある生徒に統一しても良いのではないか。」とのご意見をいただいた。 「ご意見の主旨は十分に理解した。再検討したい。」と回答した。 ○今年度の取組について ・堺市の環境人材育成支援事業に参加して生徒がフェニーチェ堺で発表をしていることや、情報モラルかるたのアイデアや活用などは、金岡高校としてユニークな良い取組みなので、もっと広く発信してもらいたいとのご意見を頂いた。 第 2 回 12 月 15 日（金）開催 ○スクール・ポリシーについて ・第 1 回の学校運営協議会でご意見をいただいた二点について再検討し、修正を加えて確定したスクール・ポリシーについて報告した。変更した点としては、「真面目にコツコツ 3 年間努力する生徒を望んでいます。」を「真面目に粘り強く～」という表現に、また「～行動できる生徒」を「～行動しようとする生徒」という表現に修正したという報告に対して了承を頂いた。 第 3 回 2 月 22 日(木)開催 ○R5 学校評価について ・委員の方から「海外語学研修はもう実施しないのか」と質問があり、それについては、新たな枠組み（金岡、堺東、東百舌鳥）のもと、夏に実施予定であることをお伝えした。 ・委員の方から「目標の達成も十分できている。これらの取組はとても良いものなので継続してもらいたい。」と評価して頂いた。 ○R6 学校経営計画について ・1・2 年の学力指標については、目標の評価指標に達成できていない状況であるが、進学の目標達成のために必要な数値であるので、目標は変えずに差を縮めていくことをしていきたい。 ○学校教育自己診断の結果について ・委員の方から「生徒の肯定値が極めて高いことは素晴らしいことと思う。また、生徒と先生方との関係が良いことが色々な数値に表れていると思う。」と評価して頂いた。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R4年度値]	自己評価
1 学習習慣と生活習慣の確立および基礎学力の定着、進路実現	(1) 授業改善し、基礎学力の定着・進路実現を支援 ア 授業アンケートおよび ICT 活用による授業改善を推進 イ 生徒のデータによる状況把握と学習支援プランの作成と実践	(1) ア・全教員が他の授業を観察、助言しあい、授業見学シートを用いて成果検証を行い、教科会議等を通して改善点について全教員で情報を共有する（9～1月）。 ・教員が他校や教育産業の研究授業や研修等に積極的に参加し、自身の授業改善はもとより教科でも情報共有を行うことにより教科授業力の向上につなげる。 ・第1回の授業アンケート(7月)で個人のシートを用い各教員が課題を把握し、教科会議で教科シートの検討し、第2回(12月)での改善を推進、次年度計画に活かす。 イ 進路指導部主導で学力指標 GTZ の分析をし、また、教科データにより各教科の弱点を各教科で把握する。進路指導部が成績を分析し、学年と連携をして3年間を見通した進路指導を行い、進路実現をサポートしていく。	(1) ア・校内授業相互見学を各自2回実施する。 ・進学に関わる教科を中心に計15回の研究授業や研修等への参加を行う。[25回] ・授業アンケート(12月)全項目の平均3.4を維持する。[3.42] ・学校教育自己診断 ICT 関連項目（生徒）の肯定値90%以上維持をめざす。[91.9%] イ・教育産業の学力指標 GTZ について 国公立難関大学を狙えるAゾーンは2.5% 中堅校を狙えるBゾーン以上は45%以上維持する。Dゾーンは10%以下を維持する。[9月：Sゾーン=0%, Aゾーン=1.6%, Bゾーン=35.6%, Cゾーン=46.4%, Dゾーン=16.4%] ・難関校の合格者12人以上とする。[12人] ・私立中堅校の合格者を120人以上とする。[164人] ・現役大学進学率52%をめざす[58.4%] ・進学実績が向上している学校視察を年間2回実施する。[2回]	(1) ア・相互見学平均4.1回(○) ・研究授業・研修16回参加(○) ・授業アンケート全項目の平均3.46(◎) ・学校教育自己診断 ICT 関連項目の肯定値96.4%(◎) イ・Sゾーン=0% Aゾーン=0.2% Bゾーン=26.2% Cゾーン=56.4% Dゾーン=17.2% 1,2年次に基礎力を定着させることが急務である。(△) ・国立大学2人現役合格を含む難関校合格者7人 国公立大学2次試験8人受験(◎) ・私立中堅校の合格者156人(◎) ・現役大学進学率68.4%(◎) ・学校視察2回実施済(狭山・河南)(○)
	(2) 「他への働きかけ力」を鍛え、21世紀型スキルを身につける。	(2) ア 探究の授業での図書館の活用を促進し、図書室の役割を強化し、各種の情報発信やビブリオバトルの取組みを強化していく。 イ ソーシャルスキル(傾聴力ピアリスニング、アンガーマネジメントほかエモーショナル・リテラシー等)やファシリテーションスキル向上などを目的とした各種の研修を教員向けに実施	(2) ア・図書室生徒貸出数、500冊を目標とする。[470冊] ・校内大会を年2回実施、代表者が高校ビブリオ西日本大会や高校生ビブリオバトル大阪大会に出場する[校内大会2回実施 西日本大会は中止、府大会出場なし] イ 教員向け研修、年3回以上実施[6回]	(2) ア・貸出693冊 (◎) ・校内大会2回実施(7/20, 12/19) 府大会12/17に1名出場 決勝進出・入賞(◎) イ・4回実施済SSW9/14・教科活用9/26・人権11/2・SNS11/16(○)
	(3) 修学旅行の充実	(3) ア 情報の授業と連携し、情報収集能力およびプレゼンテーション能力を鍛える。また、その地域の気候・産業・文化等も研究し単なる観光に終わらせない充実した修学旅行を体験させる。	(3) ア 修学旅行アンケートの満足度が肯定的評価85%以上を維持する。[96.5%]	(3) ア・修学旅行アンケート肯定回答95.1%(○)
	(4) 国際感覚を身につける。	(4) ア 以前3校合同で実施していたオーストラリア語学研修の意義を継続し、本校独自で国内での語学研修および英語での発表機会をつくる。それに向けて事前学習などを実施し、内容の充実を図る。	(4) ア 語学研修の実施継続および英語での発表機会をつくる。[国内語学研修企画後、実施はできず]	(4) ア・11/30 3年英語KPで英語によるプレゼン。大学教員に講評を頂いた。(○)

府立金岡高等学校

2 安全安心な学校づくりと環境整備	(1) 安全安心な学園環境を整える ア 通学路など学園内外での安全安心の確保 (2) 人権意識の向上 (3) 教育相談体制、サポートの充実 ア SCとSSWのケース会議で教育相談支援 (4) 地域に支持される学校 ア 生徒が主役の学校づくり イ 学校説明会の充実	(1) ア 警察と連携し、交通安全指導を実施。1年生の通学指導を強化し、通学路での事故を無くす。 (2) ア HRや総合的な探究の時間を活用し、人権HR・SNSの利用法研修等を実施することにより、他者を思いやる人権意識の向上を図る。 (3) ア SCとSSWのケース会議を年10回開催して学級運営や学習支援をバックアップする。また中学校とも連携する。 また1 (2)とも関連させて、SCおよびSSWによる教員の傾聴力向上のための研修も実施する。 (4) ア 「生徒が主役」の生徒会執行部、HR活動、委員会活動、部活動、行事をめざすべく、教師の意識改革を促す。教師はあくまで黒子で、陰のサポート役に徹する。 イ 学校説明会の内容の充実を図る。	(1) ア 自転車通学の事故ゼロをめざす。 警察との連携による登校指導などの実施や探究の時間を活用し、交通安全を考えることを通して事故総数を R4より減少させる。[68件] (2) ア 学校教育自己診断(生徒)「生徒間でお互いを尊重する雰囲気がある」肯定値 80%維持をめざす。[89.5%] (3) ア・SCとSSWのケース会議を年10回以上開催[11回] ・SCおよびSSWによる研修の実施[1回] (4) ア 学校教育自己診断「生徒会等の諸行事において、自主的に運営されている。」生徒の肯定的回答 80%以上にする。[80.2%] イ 来校者アンケートの「内容は参考になりましたか」の最上位肯定値 80%以上をめざす。[81.3%]	(1) ア・52件(R4年度より減少) (○) (2) ア・「お互いを尊重」肯定値 91.7%(○) (3) ア・1/26時点のケース会議 SC10回/SSW19回 合計29回実施(◎) ・SSWによる研修を1回実施(○) (4) ア・「自主的に運営」肯定回答 89.2%(◎) イ・学校説明会 81.7% (○)
3 教職員の働き方改革	(1) 時間外勤務の削減 ア 月の時間外勤務 80時間超の延べ人数の削減 イ 効率的な職場の環境づくり	(1) ア ノークラブデー・ノー残業デーを徹底することにより時間外勤務を削減する。 イ 教職員が効率的な仕事が行える環境を整えるための支援を行う。	(1) ア 令和5年度4月～2月に月 80時間超の時間外勤務の人数を昨年度より減少させる。[28人]	(1) ア・19名(◎) 4月4名 / 5月5名 6月6名 / 7月1名 8月0名 / 9月1名 10月0名 / 11月0名 12月1名 / 1月1名 2月0名